

第13回神奈川産学チャレンジプログラム 6チームが最優秀賞

神奈川県内の企業が抱える経営課題に対し、大学生が調査・研究を行い、解決策を提案する産学連携の課題解決型研究コンペ「第13回神奈川産学チャレンジプログラム」(一般社団法人神奈川経済同友会主催)の結果が発表され、専大は6チームが最優秀賞、10チームが優秀賞を受賞した。今回は34社が38チームを出題し、19チームが最優秀賞、44チームが優秀賞に選出された。応募総数は222チームで、専大からは応募校中最多の56チームがエントリーした。

12月14日、横浜市で行われた表彰式では、最優秀賞のチームのなかでも評価の高かった3チームが提案内容を発表。本学からは経営学部・森本祥一ゼミの荒井りらさん(3年次)のチームが登壇し、堂々とプレゼンテーションを行った。最優秀賞のうち4チームの代表に提案の内容、学んだことや苦労したことなどを語ってもらった。

- 【最優秀賞】
- 〈経営・関根純ゼミ〉 乾優花・川端将敬・尾形知香・滝口美憂
 - 〈経営・森本祥一ゼミ〉 荒井りら・宮瀧葵・野口桃那・宮下太希
 - 〈経営・間嶋崇ゼミ〉 川瀬拳太・杉浦瑞萌・大矢純輝・藤井貴子
 - 〈経営・馬場杉夫ゼミ〉 内野浩輔・横内あり紗・佐藤裕子
 - 〈商・高橋義仁ゼミ〉 河村祐希・千葉ますみ・廣本勇樹・花田祐菜
 - 〈商・鹿住倫世ゼミ〉 上村明日美・上野由佳・近藤文香・岡田柚奈・富永望美・石川真実
 - 【優秀賞】
 - 〈経営・矢澤清明ゼミ〉 伊藤淳希・西村和哉・奥原佑哉・小川竜矢・山口美穂・小柳洸太
 - 〈経営・福原康司ゼミ〉 佐々木桃子・小山貴久・長澤花野子・佐々木一歩
 - 〈経営・間嶋崇ゼミ〉 佐藤完・宮本孝幸・堤まこと
 - 〈経営・田口冬樹ゼミ〉 佐野友紀・諸岡朋宏・平岩未来・山田隼平
 - 〈経営・馬場杉夫ゼミ〉 三浦康樹・依田万由子・吉田亮太・初澤恒次朗・菊田行宏・大塚真志
 - 〈商・石川和男ゼミ〉 岡夏子・射延宏太・田村栞・住野将磨/子安優太・竹田有希・竹本航貴・岩下友香
 - 〈商・高橋義仁ゼミ〉 石井美沙祈・柴田美由紀・古市朱里・長島里紗
- ※敬称略。全員3年次。先頭がチームの代表。

経営・森本ゼミ 荒井りらさん

課題「建設現場の〇〇にインパクトを与えるICT活用の提案」(東急建設)

〇〇を「関わる人々の心」と定義。労働環境の改善や効率アップにICT(情報通信技術)を生かすことを考え、連絡や掲示板などの情報共有、騒音などの各種データ収集などが行える多機能式汎用電子工具を提案しました。

夏期休暇中に皆でICTの展示会に行き、帰りにカフェで話し合ったことがアイデアの原点になりました。行き詰まることもありましたが、諦めずに取り組んだことで、多くのことを学べた半年間でした。



表彰式で発表する荒井チーム

経営・馬場ゼミ 内野浩輔さん

課題「学生・新社会人に選ばれる銀行となるための事業戦略」(新たな商品・サービス・マーケティング手法の提案)」(横浜銀行)

提案したのは、アニメや映画の舞台を紹介する「めぐる」と、就活やアルバイト情報を伝える「はたらく」の二つの要素を組み合わせたアプリ。銀行の堅いイメージを拭い去る、斬新なアイデアを目指しました。

ゼミでプレゼンの練習をした際、先生や仲間からアドバイスももらったことで、提案の内容やプレゼンの進め方が大きく改善。本番で堂々と発表できました。



馬場教授(左端)と笑顔の内野チーム

商・高橋義ゼミ 河村祐希さん

課題「学生・若手社会人の将来の資産形成について、SMBC日興証券としての提案が有効か」(SMBC日興証券横浜支店)

「どういった方法を使えば若者が興味を持ってくれるか」ということが一番の難問でした。提案では、フリーペーパーとアプリケーションを用いて来店を促し、資産運用について考えるきっかけにしようという目標を目指しました。

金融・証券に対する知識が深まっただけでなく、「相手に伝わるプレゼン」を意識したことで、伝える力や論理的思考が身につきました。



満面の笑みを浮かべる河村チーム

商・鹿住ゼミ 上村明日美さん

課題「春のお弁当をプロデュースして、大きく売り場にあなたのアイデアを」(京急ストア)

「春」「京急ストア」「京急沿線」をキーワードに、40代をターゲットにしたお弁当をプロデュースしました。

ターゲットや価格の設定など、「なぜ」の部分の裏付けをしっかりとさせることに苦労しました。ネットに頼らず、自分たちの足で調査を行い、多くの発見がありました。コンセプトやメニューの決定、産地の選定、プロモーション方法といった完成までの流れを実際に行うことができ、貴重な体験となりました。



鹿住教授(右端)とともに笑顔の上村チーム

学生気分で千代田散策

専大生ら取材のマップ好評

大学生になった気分で大散策を楽しんで。法学部などの学生が取材・執筆した「大学生と歩いた気分!! 千代田まち歩きマップ」が好評だ。神田キャンパス周辺の地域や商店街を、専大

生13人をはじめ千代田区内の5大学の学生が探索。気になる店や場所、名所旧跡などを似顔絵や漫画を交えカラフルに紹介している。

マップは千代田区商店街振興組合連合会(秋山利昭代表理事)が千代田区の補助を受け作製。秋山の特色は何かと考えたら、大学が多いこと。今の学生さんの目にまちな商店街がどう映っているのか、若い感性で発信して

「秋葉原はアニメ関係、神田はチェーン店が多い」と思っていたが、歩いてみると「こんなところに」という発見がたくさんあった」とリーダーの持田健太さん(法2)。「歴史と新しいものの融合」をテーマに、「江戸の総鎮守とは」といったミニ知識を織り交ぜ、こ



関係者を前に特徴を説明する秋葉原・神田編のメンバー1月10日、千代田区役所



完成した3種類のマップ。似顔絵や漫画を使いカラフルに仕上がった

もらおうと思った」と狙いを語る。区内の大学に協力を呼び掛け、専大、明治、法政、二松學舎、大妻女子大学の計39人が参加した。

「秋葉原・神田」「神保町・御茶ノ水」「市ヶ谷・九段」の3種類でA3用紙2枚分の大きさ。3種はデザインが異なり個性豊か。なかでも、歌舞伎調の色彩を表紙にした秋葉原・神田編は担当者10人全員が専大生となった。

「秋葉原はアニメ関係、神田はチェーン店が多い」と思っていたが、歩いてみると「こんなところに」という発見がたくさんあった」とリーダーの持田健太さん(法2)。「歴史と新しいものの融合」をテーマに、「江戸の総鎮守とは」といったミニ知識を織り交ぜ、こ

石崎愛奈さん(法2)は神保町・御茶ノ水編を担当、取材で初めて古書店に足を踏み入れた。「普段読むような小説を売っている古書店もある」と知り、神保町が身近になりました」と目を輝かせる。

完成したマップは1月10日、千代田区役所でお披露目された。各商店街の関係者は「秋葉原や御茶ノ水の楽器店の情報は我々にとっても新鮮」「地域の魅力を発掘してくれてありがたい」とねぎらった。

マップは各5000部発行。神田キャンパス1号館の「ニュース専修」のラックのほか、地域の商店街や店舗、区役所などで無料配布している。